

堺市 読書ノートを活用し、読書活動を推進します

本を読む習慣を身に付けるということは、生きる力をはぐくむ一生の財産となり、同時に楽しみとなるものです。多くの知識を身に付けるだけでなく、豊かな心をはぐくむことができる、それが読書です。

堺市では平成24年度から、子どもたちが読んだ本の題名や感想を書くことができる「堺市 読書ノート」を児童生徒に配付し、読書記録を書くことで読書活動への意欲を高める取組を実施してきました。令和4年度からは、児童生徒用ノートパソコンを活用して読書を記録できる「堺市 読書ノート（電子版）」も活用できるようになりました。読書ノートには、担任の先生の他、保護者、市立図書館からのコメントを記入できる欄があります。さらに、電子版では読書記録を一覧にして印刷することもできます。

ぜひ、読書ノートをきっかけに、子どもと読んだ本やこれから読みたい本などについて話してください。



読書の好き嫌いと学力には 相関関係があります

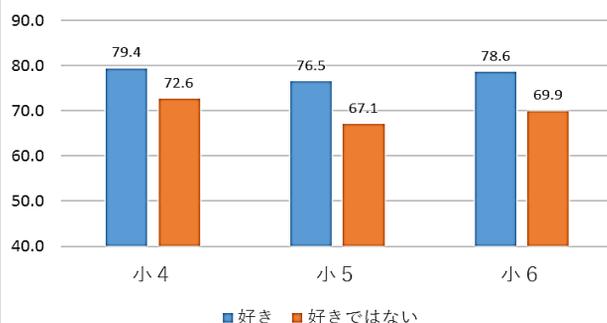
（令和2年度堺市「子どもがのびる」学びの診断より）

◆読書が好きなお子さんと好きではないお子さんでは、教科の平均正答率に差があります。

（右のグラフ参照）

◆本を読むことで、知識や情報を得るだけでなく、思考力や想像力も豊かになります。また、文章の読解力が高まるとともに、さまざまな場面においても、筋道立てて考えることができるようになります。

読書が好きなお子さんと好きではないお子さんの教科平均正答率



令和2年度 堺市「子どもがのびる」学びの診断 より

子どもの読書活動を 家庭・学校 市立図書館で応援

家庭

☆本を読んだ時には、「本を読んでえらいね。」「どの本が好きだった？」などの声かけをしてあげてください。

☆50冊、100冊読み終えたとき、「おうちの人から」の欄にコメントを書いてあげてください。

☆積極的にお子さんを市立図書館に連れて行ってあげてください。

☆テレビ等を消して、時には一緒に本を読んで過ごす時間をもつようにしましょう。

子どもが読んだ本や、「心に残った本ベスト3」などをもとに、「たくさん本を読んだね。」「この本のこんなところが心に残ったんだね。」などの声かけをしてあげてください。

子ども



学校

☆堺市 読書ノートを活用した読書の記録に取り組み、100冊達成者の紹介など、子どもの読書意欲の向上に取り組みます。

☆50冊、100冊達成者には・・・
・「担任の先生から」の欄にコメントを書きます。

☆「堺100冊チャレンジ」を実施し、読書推進に取り組みます。

☆朝読書や図書の日等を活用し、読書活動を推進します。

市立図書館

☆子どもたちの読書への関心を深めるためのおはなし会や読書のイベント等を実施しています。

☆セレッソ大阪とコラボした様々な読書推進の取組を実施しています。

☆50冊、100冊達成者に、「図書館から」のコメントを書いたり、スタンプを押したりします。また、「おすすめの本 ブックリスト」を渡します。

読書ノートの使い方



①子どもが、物語や絵本、図鑑など本を読みます。



②読み終わったら、読書ノートに記録します。
・本の題名 ・読み始めた日 ・読み終わった日 ・一言感想

③子どもが読書ノートに記録したら、声をかけてあげてください。
(紙版ではスタンプを押します。※担任が押すこともあります。)



④続けて本を読み、読書ノートに記録を続けます。



⑤読んだ本が50冊に達します。
・読んだ本の中から、「心に残った本ベスト3」を書きます。
・読んだ本の中から、「おすすめの本」を書きます。
・ノートの中に50冊達成の賞状がついているので、日付けを書きます。

⑥子どもが50冊達成したら、「おうちの人から」のコメント欄に、はげましの言葉を書き、子どものがんばりを褒めてあげてください。
(学校で担任も記入します。)



⑦続けて本を読み、読書ノートに記録を続けます。



⑧読んだ本が100冊に達します。(50冊と同じです。)
・心に残った本
・おすすめの本
・賞状

⑨子どもが100冊達成したら、「おうちの人から」のコメント欄に、はげましの言葉を書き、子どものがんばりを褒めてあげてください。
(学校で担任も記入します。)



⑩100冊達成したら、ノートの中にある「読書キング 登録票」を担任の先生にわたします。(電子版ではデータを提出します。100冊達成者を学校が把握します。)

～ぜひ、お子さまと一緒に近くの市立図書館へ～

- ・50冊、100冊達成時には、図書館の人からのコメントやスタンプをもらえます。
- ・セレッソ大阪と協働した「読書チャレンジ」の取組も行っています。
(詳しくは学校から配布されるリーフレットをご覧ください。)

～わくわく どきどき だからわたしは 本がすき～